助産学科

令和 7年度　学校評価 結果(最終評価)

独立行政法人国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施している。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂した。
国立病院機構近畿グループ4校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指している。

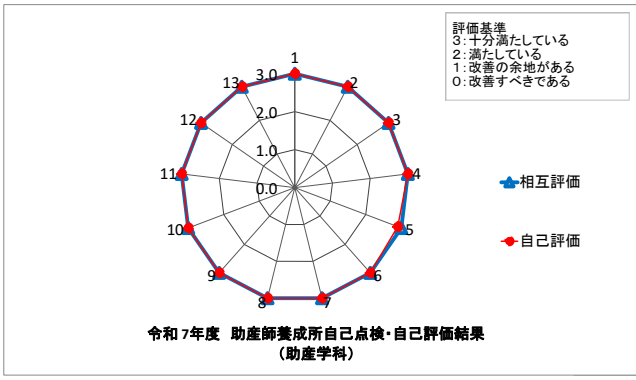
学校評価（助産学科)最終評価結果

昨年度の評価をもとに、引き続き改善に取り組んだ結果、すべての項目において3.0点と高評価を得た。項目別にみると、「Ⅴ.学校組織」はタイムリーな情報共有、実習施設拡大に伴う指導体制の整備、「Ⅺ.教育環境」は今年度に電子テキストを採用したこと、助産学科棟の老朽化に伴う屋根修理、高額教材（ファントーム、分娩台など）の更新を行い、学習環境を整備したことにより昨年度より改善された。

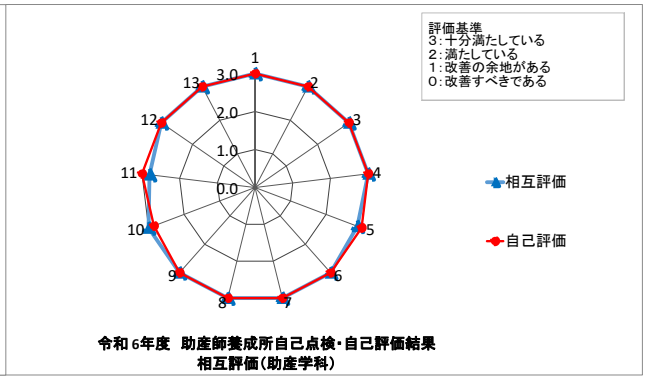
その他、とくに次の3点について評価された。
1.教育課程：OSCEや健康教育実習など独自の教育内容を運営・評価し、魅力ある教育課程である。カリキュラム評価により一貫した教育活動が行われている。
2.学校生活支援：LMSを効果的に活用し、予習や復習のための教材動画や講義動画の配信により学生自身が効果的かつ計画的に学習できる工夫がされている。
3.教員の研究活動：日頃の教育活動を研究的にまとめ、学会発表につなげている。研究活動や執筆活動は自校のみならず助産師教育の質向上に貢献している。

赤字：昨年より上昇　青字：昨年より低下

評価項目		評価の視点	項目	R7年度		R6年度	
				相互評価	自己評価	相互評価	自己評価
Ⅰ	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅱ	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅲ	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅳ	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅴ	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0	2.9	2.9	3.0
Ⅵ	入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅶ	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅸ	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0	2.9
ⅩⅠ	教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0	3.0	2.8	3.0
ⅩⅡ	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0	3.0
ⅩⅢ	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0	3.0
		全　体　平　均		3.0	3.0	3.0	3.0



令和 7年度　助産師養成所自己点検・自己評価結果
（助産学科）



令和 6年度　助産師養成所自己点検・自己評価結果
相互評価（助産学科）